



JET プログラム終了後の日本での活躍

(一財)自治体国際化協会 JET プログラム事業部調整課

JET プログラム参加者は、外国語指導助手 (ALT) や国際交流員 (CIR)、スポーツ国際交流員 (SEA) として最長5年間、日本全国の自治体や教育機関などで活躍しています。そしてプログラム終了後は、日本国内に残ったり、海外で日本との交流に携わったりするなど、多種多様な活動をしています。

今回は、JET プログラム終了後も日本に滞在し、ご活躍されている2名に、現在の活動やプログラム参加当時の思い出などを語っていただきました。

プロフィール

**James Kent (ジェームス・ケント)**

元 ALT (1997 ~ 2000 年 高知県)

出身: イギリス

経歴:

- Non-JET CIR として会津若松市で勤務 (2000 ~ 2003 年)
- (財) 京都文化交流コンベンションビューローで国際マーケティング担当として勤務 (2003 ~ 2013 年)
- 現在は The J Team (株) の取締役を務める (2013 年 ~)

Q: JET プログラムに参加したきっかけは?

1991 年に世界スカウトジャンボリーで日本を訪れて日本が大好きになりました。6 日間の滞在では物足りないと思いながら帰国したところ、大学の就職アドバイザーから JET プログラムを紹介され、人生が変わる機会だと思い参加を決意しました。

Q: JET プログラムでの業務内容と、当時印象に残ったことを教えてください。

ALT として、高知県内の 4 つの高校に勤めました。JET プログラム参加者の有志で ALT の指導成功事例や企画などに関する資料を作成しました。

また、ボランティアグループ「GENKI 青年会」に所属し、舞台公演を通じた募金活動で海外留学希望者の支援を行いました。「土佐弁ミュージカル」の裏方として3年間携わるなど、素晴らしい経験ができました。

JET プログラムで最も充実していたことは、地域住民と交流し、地域に貢献できたことです。今でも高知には

大切な友人が多くいて、頻繁に訪れています。

Q: 日本に残ることとなったきっかけは?

友人ができたこと、地域の一員になれたことです。加えて、他の地域のことも知りたい、さらに語学力を向上させたいと思い、友人のいる高知から遠く離れた場所に引っ越しました。高いモチベーションを維持できるキャリアを日本で見つけ、気付けば JET プログラム時代から数えて 26 年も日本に滞在しています。

Q: 現在の活動を教えてください。

デスティネーション・マネジメント・カンパニー (DMC) に勤めており、日本でのビジネスイベントの企画・運営を希望する企業や組織の支援をしています。近年、日本では MICE について多く報道されており、特にインバウンド MICE の経済効果が国や自治体からも注目を集めています。私たちの専門分野は、日本でのインセンティブアワードのコンサルティング、企画、運営です。これまで、自動車の新作発表会、各種集会、チャリティーイベント、ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピック競技大会など、さまざまなイベントを手掛けてきました。今後も日本の良さを伝え、日本への関心を高めていくことを目指しています。

Q: 現在の活動の PR をどうぞ

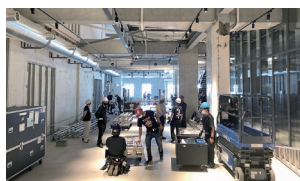
人間国宝、茶道家元、世界的スポーツ選手、世界的企業の役員、政治家、歴史的建造物、市場に出ていない技術と共に仕事ができる業界が他にあるでしょうか? さまざま



White Project



な情報がありますが、一部を LinkedIn、Instagram、Facebook、当社のウェブサイトなどに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。 Yurei Project



Q：他の JET プログラム参加者や、これから参加する方々へアドバイスをお願いします。

有名なアメリカのスポーツブランドのように、とにかくやってみることで。JUST DO IT！

プロフィール



李 在鎭 (イ ジェジン)
元 CIR(2012～2017年 島根県雲南市)
出身：韓国ソウル市
経歴：
・韓国の大学で韓国語教師として勤務
・韓国多文化家族支援センターで勤務
・現在、(一社)ダイバーシティうんなん toiro 副代表理事を務めながら多文化交流カフェ Soban を経営。

Q：JET プログラムに参加したきっかけは？

韓国で外国人に韓国語を教えるうちに、外国で自分の国の言葉や文化を伝えたいという気持ちが強くなりました。妻が日本人だったので自然と日本に興味を持ち、参加することを決めました。

Q：JET プログラムでの業務内容と、当時印象に残ったことを教えてください。

教育機関での国際交流に関する授業、地域での韓国文化紹介、友好都市（雲南市・韓国清道郡）との交流事業などを行いました。交流センターで文化教室を開いた際に、年配の男性から「韓国に良いイメージがなく、あまり好きではなかったが、今日あなたに会って考えが変わった」と言われたことがとても嬉しく、印象に残っています。



小学校訪問 (JETプログラム参加当時)

Q：日本に残ることとなったきっかけは？

勤務先の市役所や訪問先の学校、交流センターの方々本当に親切にいただき、日本一幸せな CIR だと感じる事が度々ありました。また、プライベートでも人の優しさに触れ、自然と地域に恩返ししたいと思うようになり、任期後も雲南市に残り、多文化共生活動を行うことにしました。

Q：現在の活動を教えてください。

雲南市から委託を受け、外国人住民の生活サポートや啓発活動などの多文化共生事業を実施しています。また、古民家を改修して多文化交流カフェ Soban（韓国語でお膳の意味）を運営しています。

JET プログラム参加時に何度も韓国料理教室を開き、「美味しいもの」は初対面の方であっても簡単に壁を越えて互いをつなげてくれると実感しました。

現在は、食を通じさまざまな活動をしています。雲南市の特産品であるとうがらしを使用した「チーズタッカルビの素」「ヤンニョムチキンのたれ」も商品化しました。これらはふるさと納税の返礼品にも選ばれています。

今後もさまざまな形で雲南市をPRしていきたいです。



多文化交流カフェ Soban のホームページ



食の紹介サイト foodsoban

Q：他の JET プログラム参加者や、これから参加する方々へアドバイスをお願いします。

ボランティアやスポーツ活動など、地域活動に積極的に参加すると良いと思います。そこでできたご縁を、任期後も大切にしていってください。

Q：最後にひと言

これからの CIR は母国と日本の交流を進め、文化を紹介するだけでなく、多文化共生を推進し、在住外国人を地域につないだり生活を応援したりする役割を積極的に担っていくことが重要だと思います。そういった意識が JET プログラム参加者や受け入れ側に必要になります。これからも、外国人を含めた住民一人一人が大切にされるよう活動していきたいと思っています。



食を通じた交流